



織田信長から与えられた 大野で城と城下町を整備

室町時代の大永4年(1524)に美濃(現在の岐阜県)に生まれ、18歳で仕えた織田家では8歳だった織田信長の世話係となりました。天正3年(1575)には越前の一向一揆鎮圧の功績により、その恩賞として信長から大野郡の3分の2を与えられると、大野城の築城と城下町づくりに着手。現在も残る碁盤の目状の通りをはじめ、豊かな地下水を使って町中に生活用水や防火用水、下水道(背割水路)の整備を行いました。長近は飛騨高山(現在の高山市)や上知(現在の美濃市)などでも城下町を整備し、今で言う都市計画の才能を発揮しました。



かなもり ながちか
金森長近 | 1524-1608 |
(大徳寺 龍源院本複製)

外に出てからもココに注目!



石垣の積み方

大野城の石垣には、約1km離れた戌山城(いぬやまじょう)の城石や亀山で採石した石を使用したと伝わっています。自然の石を積み上げる「野面(のづら)積み」という工法で、頑丈で崩れにくく、水はけのよさが特徴です。



奇跡の絶景 “天空の城”について

雲海に浮かぶ越前大野城。これが近年「天空の城」として話題の、気象条件が揃わないと見ることができない奇跡の絶景です。展望スポットは、越前大野城の約1km西にある犬山(戌山城址)。詳しくは下記のQRコードから。



「天空の城」の詳細はココから→



福井県大野市城町3-109 Tel.0779-66-0234

開館時間/9:00~17:00 (10・11月は~16:00) ※早朝開館する場合あり

12/1~3/31休館

料金/大人300円、団体(30名以上)及び障がい者150円、中学生以下は無料

kanko@city.fukui-ono.lg.jp

STAMP

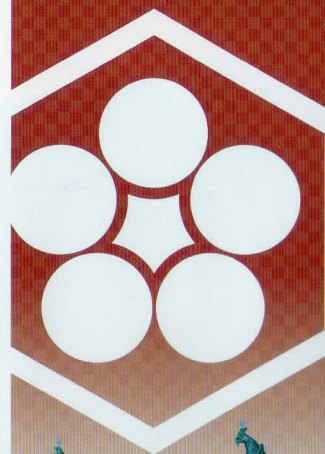
結
郷の
故
越前おの

Castle in the sky
Echizen Ono Castle

越前大野城

天空の城

県指定文化財(史跡)





撮影者：佐々木 修

3F 大野城発掘資料

「文化七年」と刻まれた石垣

昭和43年(1968)に大野高校体育館を建設する際、大野城外堀の場所で見つかった石垣。「文化七年」(1810)の年代や、石垣修復を務めた役人と職人の名前が彫られています。



(大野市博物館所蔵)

文化年間の修復については「越前国大野城破損之覚絵図」などの資料が残ります

大野城本丸の鬼瓦。「大」の字の下は、防火の願いを込め、逆巻く波を図案化したもの



(大野市博物館所蔵)

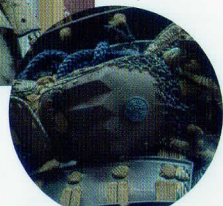
1F 城と武具

兜にかわいいウサギ!?

大野藩主土井家7代の利忠を祀る柳廼社やなぎのやしらが所蔵する、土井家伝来の甲冑かっちゅう。土井家4代藩主だった利貞が、古い兜に合あはわせて組み直したものと考えられ、総体的には江戸中期のものと思われます。



兜の正面、前立(まえたて)には、子孫繁栄を願う縁起物として武将に好まれたウサギがのっています!



甲冑全体にはさまざまなデザインが施されています。手の甲にも土井家の家紋である「丸の内水車紋」があらわれています



(柳廼社所蔵)

日本百名山 荒島岳

展望室から眺めると、大野の街が山々に囲まれた盆地であることがよくわかります



4F 展望室

築城当時の町並みが今に残る

眼下に広がる城下町が一望できる展望室。約440年前に金森長近が整備し、ほぼ当時のまま今も残る基盤の目状の通りもよくわかります。大野城と城下町、長近は現代の大野の街の基盤を造りました。

2F 大名の装い

土井家の嫁入道具

この道具は「茶弁当」といい、8代藩主の土井利恒に嫁いだ於福の婚礼道具の一つ。お出かけなどの際には、これに茶道具一式と弁当を入れて運んでいました。



(柳廼社所蔵)

柳廼社(やなぎのやしら)で大切に守り伝えられてきたため、日履(ひおおい)部分の緋色は約160年前のものとは思えない美しさ。於福の故郷・古河(こが)土井家の水車紋(表紋)と沢瀉(おもだか)紋(裏紋)が入っています



土井利忠画幅
(柳廼社所蔵)



土井利忠写真
(大野市博物館所蔵)

ど い と し た

土井利忠 | 1811-1868 |

わずか8歳で土井家の7代を継いで大野藩主となり、19歳で大野へ。藩政改革によって藩財政を立て直し、身分を問わず優秀な人材を登用するなど、名君として知られています。「土井利忠画幅」は、晩年に撮影された利忠の写真(右)を見て描かれたことがわかっています

越前大野城について

築城から440年、“天空の城”として有名に

織田信長から大野郡を与えられた金森長近が天正4年(1576)から4年の歳月をかけて築いた城。標高約249mの亀山の山頂へいたんにして本丸を造り、その東側のふもとに二の丸や三の丸を築いた「平山城」ひらやましろです。この形式には軍事目的だけでなく、政治や経済、文化の中心であることを示すという意味もありました。天守は江戸時代の安永4年(1775)の大火で焼失。現在の天守は、残された絵図や同時代の他の城を参考に、旧士族の萩原貞氏の寄付により昭和43年(1968)に再建されたものです。近年では、雲海に浮かぶ幻想的な姿が「天空の城」として話題となり、全国から多くの人が訪れています。